

加：小学生から塾通いですか。
 牛：はい。でも私は基本的には独学の人です。東大では出欠をとりませんでしたから、授業に出ないで自由に好きな読書を出来る時間を謳歌していました。司法試験も参考書を頼りに独学で受けました。今でもそうですね。私は人にものを習うのではなくて、自分でやりたいようにやる方が好きです。弁護士は向いていたんでしょう。



中：お生まれは宮崎県なのですね。
 牛：はい。宮崎県小林市で生まれて4歳まで住んでいました。私は10～18歳までと後に検事赴任中の1年間しか広島で暮らしていませんが、自分の出身地は広島だという気がしています。人生がフル回転している時代には、過去とは食べてしまった御飯のようなものだ、と森鷗外が随筆に書いている通りです。ですが66歳にもなると、昔のことが大切になってきました。両親のこともよく思い出したりします。
 加：フル回転しなくても良い、と。
 牛：事務所を始めて30年以上も経つと一人前以上の所員がたくさんいますから、私がやらなければならないことは幸いにも減ってきています。おかげで別のことを一生懸命やっています。コーポレートガバナンスに打ち込めるのも所員の支えのおかげです。
 中：お忙しい中で執筆もされていますね。
 牛：最初の『株主総会』は、当時株主総会のお手伝いをしていた中での疑問を元にしています。小説は不特定多数の人に向かって語りかける思いで書きました。やはり余裕が持てるようになったことによります。小説とエッセイ集とを9冊ずつ出しています。今も連載を抱えています。

加：実は今回、小説『あの男の正体』^{ハラワタ}を読んで来ました。
 牛：おお！それはそれは、ありがとうございます。あれは難産でね、連載から大分手を加えたんです。
 加：読んでいたおかげで、今日の内容がとてよく分かりました。
 牛：そうですね。フィクションとはいえ、私は自分の人生しか知らないから。
 加：一つ伺いたいののですが、書いていると自分の想定と違う方向に自然と物語が流れたり登場人物が動き出す、という作家がおられます。いかがですか。
 牛：よくぞ聞いてくれました。そうなんです。まさにこの小説に出てくるヒロインがそうでした。「私は絶対に嫌だ、そんな結末に向かうのは嫌だ」と言って、想定していた結末と全然違う方向に行くのです。カクカクシカジカでね。(ネタバレになるので伏せ字にします、是非お読みください)
 加：え～！そうだったんですか!!!
 牛：そうなんです。面白いよね。
 中：少し戻りますが、附属を出た後の方が楽しかったですか。
 牛：附属の頃にも楽しいこともあったけど、それ以上に重圧感の方が強かったですね。実は東大に入った先に、やっと自由な人生が始まると思っていましたが、重圧感は今でも続いています。
 加：ということは、その重圧感は今でも自分でも生み出しておられるのですか。
 牛：おお！そうなんだよ。自分には到底できないような課題を自分に課してきた人生なんですよ。私は自分自身の目標の大きさによく潰されないでここまで来たものだと思います。今でも野心的だと思います。でもあの小説に書いたように、最後の最後で違ったんだと思うかも知れません。いや、思い始めているのかも知れないな…
 加：変わりつつあるんですね。
 牛：そうとも限りません。人から見たら充分と映るかも知れませんが、自分では常にずっと空腹感を抱えたままで

す。愚かだなと思いますし、滑稽だとも思います。
 加：止めたいですか。
 牛：止めるに値するほど素晴らしい別の価値を持ってない、代わりの価値を持っていません。三つ子の魂百まで、です。
 中：在校生へのメッセージをどうぞ。
 牛：世の中も人生も、あなたが考えているよりもはるかに広くて深い。これまでの体験よりずっと素晴らしいことが待っていると申し上げたい。私は世の中に出て働いてみて初めて自分の意味、世の中と自分との関係が見えてきましたから。
 中：アカシアの皆さまにもどうぞ。
 牛：アカシア会は優れた方の集まりだと思います。人のつながりは広島から東京に来て素晴らしいものでした。このアカシア会があることが、私にとって人生の一つの大きな要素です。自分の原点は附属の頃にあります。取り替えがきかない経験でした。また人は死ぬんだとも最近思うようになりました。でも私も皆さんも、これから先にも面白いことがたくさんあることだろうと思います。
 中：今日はどうもお忙しい中をありがとうございました。

 中：すごい立地の事務所じゃろ。
 加：えっ？首相官邸は!?
 中：さっき上から眺めんかった？
 加：はあ、ガラス越しでしたけど。
 中：ほんじゃ、帰るとしようか～

中本泰弘(65回)
 加用雅信(80回)



左より、中本泰弘(65)、牛島 信氏(58)、加用雅信(80)

「平和は楽しい」

私達は地球の人達と音楽と一緒に楽しむ事で
 「人の心に平和のとりでを築く」活動を推進していきます。



NPO法人音楽は平和を運ぶ
 〒730-0041 広島市中区小町6-30 PELRA101
 Tel:082-247-8604 <http://music-peace.jp>
 理事長 松尾 康二 (46回)